

請願第 59号

平成25年 2月27日

川崎市議会議長 大島 明 様

幸区

南加瀬保育園保護者会

ほか 4名

### 幸区の塚越踏切付近の市道に関する請願

#### 請願の要旨

幸区の塚越踏切付近の市道を誰もが安全に通行できるように整備及び対策を取っていただくよう、署名を添えて強く請願します。

#### 請願の理由

2月4日朝、当該市道の塚越踏切の手前で、女兒二人を乗せた自転車が転倒し、乗っていた女兒が車道に投げ出されて死亡する事故が発生しました。

この市道における歩道は非常に狭く、自転車道も設置されていない上、車両の通行量も多いことから、かねてより危険を感じる住民も少なくありませんでした。

この市道は、通勤等で国道へと向かう普通車や大型車両など、平日の朝は特に交通量が多い上に市営バスも通行しています。さらに、南武線の踏切を待つ車両で渋滞も発生している状況です。そのような中を通勤・通学中の自転車はもちろん、子どもを乗せて幼稚園や保育園へ向かう自転車は、狭い歩道の上か車道の横を走行せざるを得ない状況で、転倒すれば大きな事故につながることは言うまでもありません。また、子どもを乗せていたか否かにかかわらず、このような狭い歩道の上で自転車同士が行き違うことが困難であることは明らかです。

また、当然ながら狭い歩道は自転車だけではなく歩行者も危険です。当該市道においては歩行者のみがすれ違うのが精一杯であり、歩行者と自転車がすれ違うには両者の配慮が必要です。走行している自転車と歩行者が狭い歩道の上ですれ違うとなれば、衝突事故の可能性も高まり、歩行者を回避しようとして自転車が転倒する危険も高くなります。また自転車と対じる歩行者が恐怖を感じることは言うまでもありません。

そして歩行者にはいわゆる「交通弱者」と呼ばれる子どもや障がい者、高齢者等の人々がいます。狭い歩道を、このような人たちが果たして安心して通行できるのでしょうか。

子どもの視点から見れば、たとえ大人と共に歩いていたとしても、自身のすぐ横を自転車が通ることに恐怖を感じるはずです。そして、大型車両が多く通行する車道に隣接する歩道を子ども同士で歩くことはあまりにも危険です。

また、障がいを持った方にとっては、このように狭い歩道では、前後から来る歩行者や自転車とすれ違うにはあまりにも狭すぎます。回避しようとするれば転倒の可能性もあり、車道側に転倒すれば更に大きな事故につながる危険性もあります。それは高齢者にとっても同様です。車椅子ともなれば、歩行者や自転車と歩道ですれ違うこと自体が困難です。

「危険があるのであればこの市道を回避すればよい」と考える方もいるかもしれませんが、バリアフリーの観点等から着目しても、交通弱者も含めた全ての人が、安心・安全に通行することができるまちづくりを目指さなくてはならないのではないのでしょうか。

わずか5歳という短い生涯を終えることとなった女兒に対して御冥福をお祈りすると共に、今後、このような事故が起きないように対策を取り、いわゆる「交通弱者」を含む「歩行者」、「自転車」そして「自動車」が安心・安全に通行できるような当該市道の整備及び対策がなされるよう、下記の項目についてお願いします。

#### 請 願 項 目

- 1 当該市道（歩道、自転車道及び車道）を誰もが安心・安全に通行できるよう整備を行うこと。

2 当該市道において、交通弱者に配慮した誰もが安心・安全に通行できる対策を取ること。

紹介議員

鏑 木 茂 哉  
かわの 忠 正  
東 正 則  
竹 間 幸 一  
松 川 正二郎  
猪 股 美 恵  
三 宅 隆 介